

料金制度専門会合 CAPEX施工力確保の考え方について

2022年 10月26日

中国電力ネットワーク

1. 施工力確保の考え方について（送変電設備）

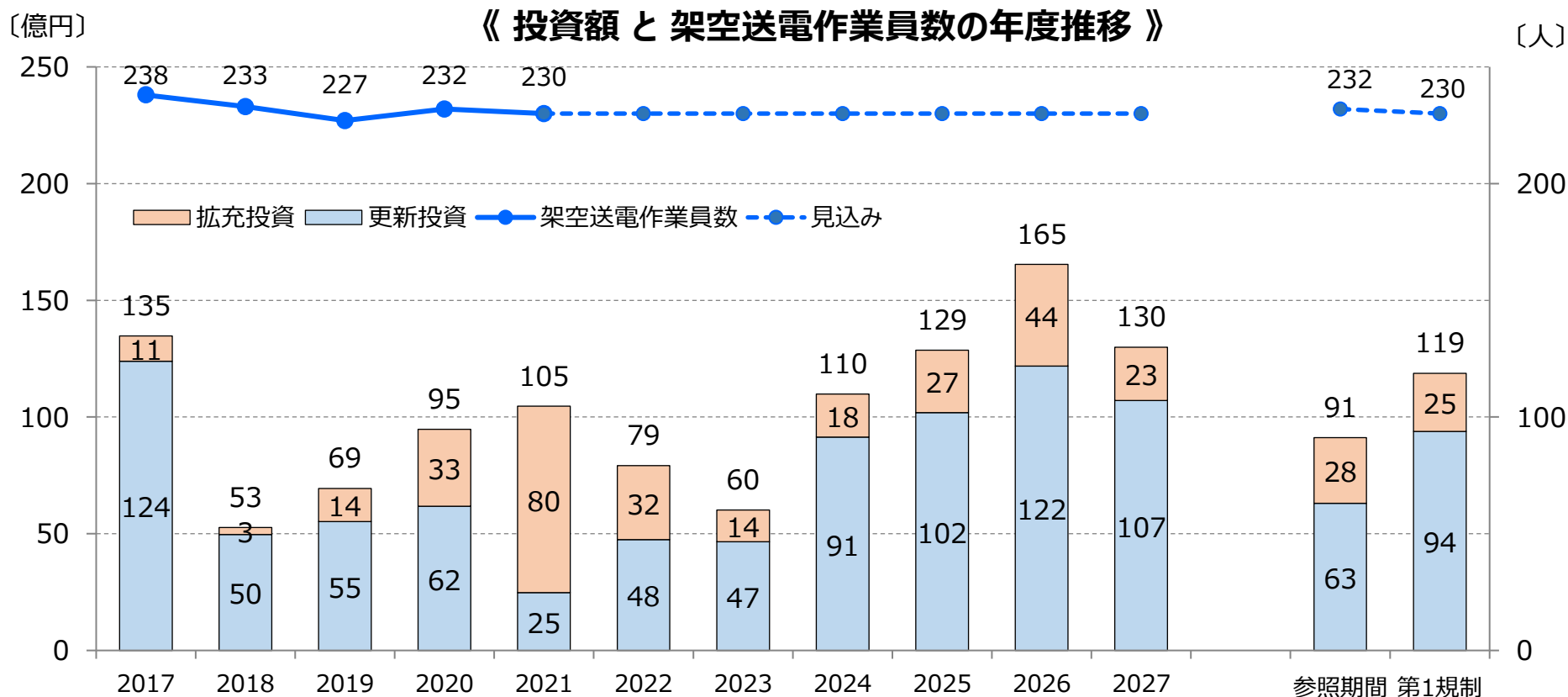
■ 送変電・配電設備の主要 9 品目に関する施工力確保の考え方については以下の通りです。

区分	品目	投資量評価※	施工力確保の考え方	詳細説明
送電	鉄塔	○	・ 投資額で施工力を想定しています。	2ページ
	送電線	—		
	地中送電ケーブル	○	・ 投資額で施工力を想定しています。	—
変電	変圧器	—	・ 投資額で施工力を想定しています。	3ページ
	遮断器	○		
配電	コンクリート柱	○	・ 投資額で施工力を想定しています。	4ページ
	配電線	—		
	柱上変圧器	○		
	地中配電ケーブル	—	・ 投資量（km）で施工力を想定しています。	5ページ

※ ○：最大過去実績の範囲内、—：最大過去実績の範囲外

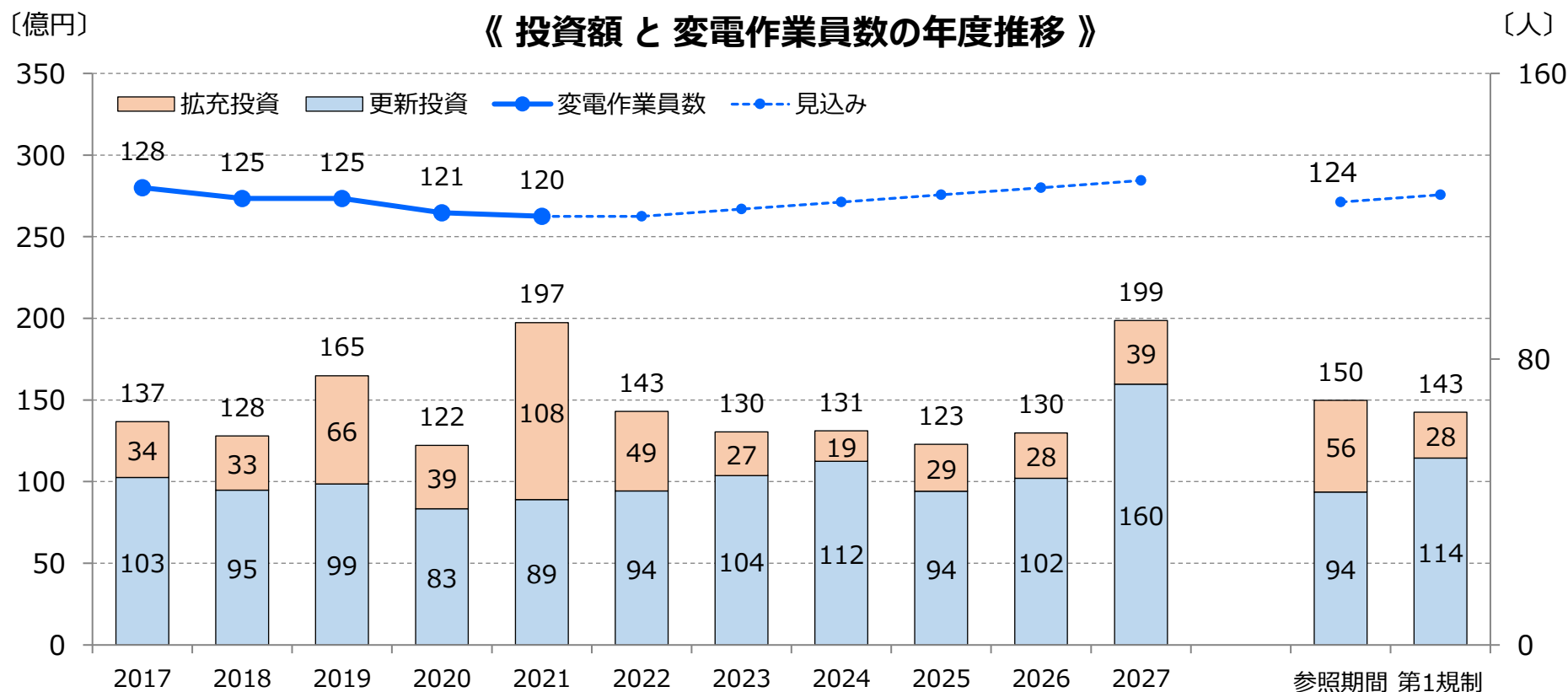
2. 投資額に対する施工力確保の考え方（鉄塔、送電線）

- 鉄塔および送電線工事は、同調施工する場合が多いため、投資額と架空送電作業員数で施工力を想定しています。
- 架空送電作業員数は、現状230名程度であり、継続した施工力確保の取り組みにより、今後も現状程度を確保していきます。
- 過去の稼働実績に基づく中国地域内の架空送電作業員の稼働率から、平準化の強化や作業調整等を行うことで、増加する投資額に対して現状の施工力で対応可能と考えております。



3. 投資額に対する施工力確保の考え方（変圧器、遮断器）

- 変圧器および遮断器は、スイッチギヤなど他の変電工事を含めた全体の投資額と変電作業員数で施工力を想定しています。
- 変電作業員数は、現状120名程度であり、継続した施工力確保の取り組みにより、今後も現状程度を確保していきます。
- 変圧器、遮断器など個別には工事量の増減があるものの、変電工事全体では、規制期間の投資額の規模が参照期間と同程度であることから、現状の施工力で対応可能と考えています。

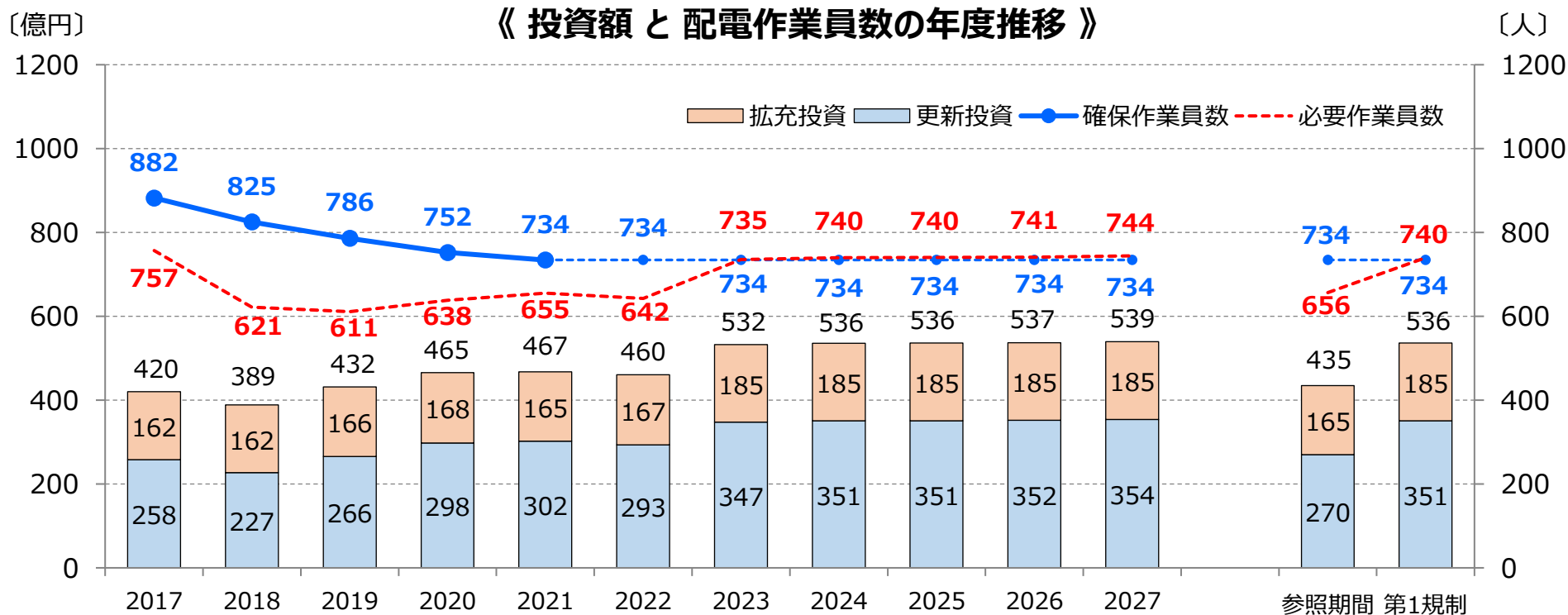


※投資額は、変電設備全体の竣工額を計上

※変電作業員数は、中国地域内の協力会社15社の人数（2017～2020年度、2022年度は、2021年度の調査結果より推計）

4. 投資額に対する施工力確保の考え方（コンクリート柱、配電線、柱上変圧器）

- コンクリート柱、配電線、柱上変圧器は、他の架空配電工事を含めた全体の投資額と架空配電作業員数で施工力を想定しています。
- 架空配電作業員数は、現状730人程度を確保しており、継続した施工力確保の取り組みにより、現状程度を確保していきます。
- 規制期間の投資額から工事量を想定し、必要な作業員数を算定すると、僅かに確保している作業員数を上回るが、作業工法の改善など、作業の効率化を進めることで、増加する投資額に対して現状の施工力で対応可能と考えております。

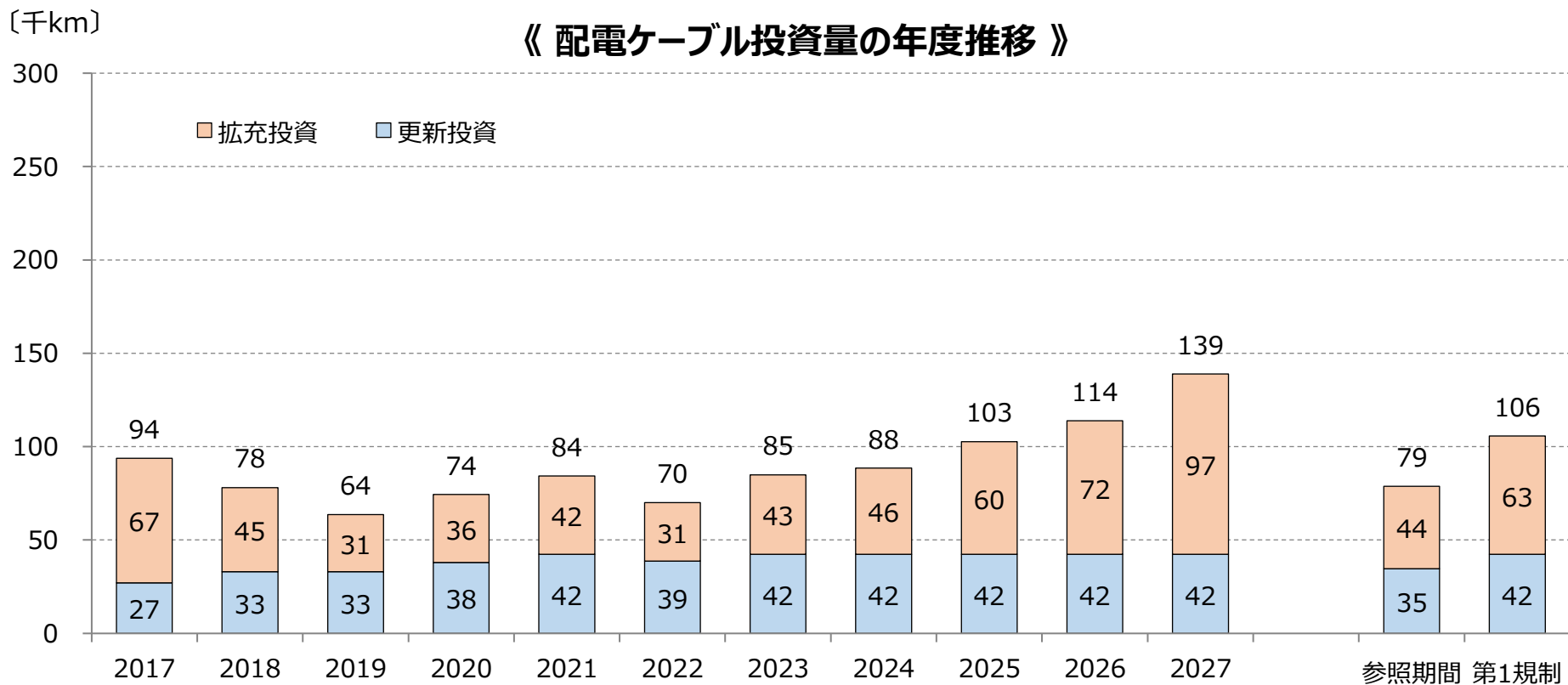


※投資額は、地中線工事、計器工事を除いた配電設備の竣工額を計上

※架空配電作業員数は、協力会社6社の人数（架空配電工事）

5. 投資量に対する施工力確保の考え方（地中配電ケーブル）

- 地中配電ケーブルは、投資量（k m）から必要な施工力を想定しています。
- 早期発注することで、必要な作業員の確保に取り組んでいきます。
- 上記に加え、年間をとおして一定量の工事を工事会社へ発注し、工事を平準化することで、増加する投資量に対して現状の施工力で対応可能と考えています。



6. 継続した施工力確保の取組み

- 継続した施工力確保に向けて、以下の取組みを取引先と連携して準備を進めています。

主な項目	継続した施工力確保の取組み
稼働率の向上	【年間作業の平準化】 - 作業のオフピーク時期（重負荷期や発雷期）への作業シフト - ダイナミックレーティングなど設備運用方法の見直しによる停電可能時期の拡大 - 早期発注および工程調整による作業可能期間の拡大 など
入職者の増加	【労働環境の改善】 - 工事期間中の休日の確保、休日移動や深夜作業の回避 4週8休を考慮した工期設定 - 作業員の負担軽減 （具体例） ✓ 送電工事における山間部の通勤用モノレール ✓ 空調服 など 【認知度向上】 - パンフレット作成、配布 - SNS情報発信 など

